

平成 24 年度 上 半期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	岩野田児童センター	所管課	福祉部子ども家庭課
所在地	岐阜市粟野東1丁目95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 中部学院福祉会		
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	14,726,000円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:1,095.03㎡ ◇延床面積:532.42㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、集会室兼図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室兼静養室、駐車場		

●利用状況

		H24 上半期	H23 下半期	H23 上半期	H22 下半期	H22 上半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	9,465	8,610	11,390	9,633	12,159
	移動児童館利用者数	1,091	1,279	1,223	1,631	1,120
各室稼働 状況	移動児童館実施回数(単位:回)	24	20	20	27	21
	開館日数(単位:日)	157	152	157	151	157

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①、⑤計画どおり実施。 ②所長、正規職員(2名)、嘱託職員(1名)。 ③日刊紙、放送等多様なマスメディアを活用、月刊広報誌の発行・配布、児童センターホームページ・ぶりあネット掲載、チラシ・ポスター、地域ミニコミ誌等による広報を実施。 ④要望・意見は順次今後の活動に反映、実現不可能な場合はその理由を明確に公表。
自主事業・提案事業	—	—
施設管理	①施設設備の保守点検の実施(仕様書別記2参照) ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①指定管理者(法人)と連携のもと適切に実施。備品購入・委託事業等は法人の経営する施設と一括購入及び入札する事で経費縮減。 ②快適な職場環境を維持するために細やかな気配りを行った。 ③省エネ等に対する職員意識の徹底。 ④閉館後、できる限り施設・備品等の点検に努めた。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	①修繕に要する事態が生ずれば迅速に対応。今年度は、「遊戯室暗幕レールの破損」の修理、「掃除機」修理を完了。安全面で緊急性がなく、高額の経費を要するとみられる修繕の場合は岐阜市と協議し対応。 ②小学生の自然観察・植物育て体験用に、園庭の一部に「花壇」を整備。
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①個人情報保護に関しては、中部学院福祉会岩野田児童センター管理規定に基づき、職員の日頃の職員会議の折り、意識の共有を確認している。 ②非常時対応マニュアルを整備。避難訓練時等に確認し合っている。 ③コンプライアンス意識の徹底に努めた。

●利用者評価

<p>利用者アンケートの実施状況</p>	<p>調査期間:平成24年9月中旬～下旬 調査対象:①幼児クラブ参加及び来館の保護者(0～3歳児の母親)、②来館児童(小学生) 回答者数:①73人 0歳8人(11%)、1歳25人(34%)、2歳29人(40%)、3歳以上11人(15%) ②97人・1年22人(23%)、2年12人(12%)、3年21人(22%)、 4年3人(3%)、5年11人(11%)、6年6人(6%)、不明2人(2%) ・男39人(40%)、女54人(56%)、不明2人(2%)</p>
<p>利用者アンケートの実施結果</p>	<p>①幼児クラブ参加及び来館の保護者 ○児童センターを利用する目的 子どもを遊ばせに60人、子育て仲間づくり18人、子育ての情報交換14人 ○採り上げてほしい内容 ポール遊び46人、リトミック42人、体操35人、手遊び21人、絵本20人、しゃぼん玉18人、幼稚園・保育園の訪問16人、新聞紙遊び15人、遠足14人、粘土遊び11人、スタンプ遊び10人等 ②来館児童 ○児童館に来る頻度 月に数回60人(62%)、週2～3回26人(27%)、毎日5人(5%)、初めて3人(3%)、無記名3人(3%) ○児童館に来る目的 友達と遊ぶ66人、なんとなく17人、運動8人、本を読む5人、パソコンを使う4人、先生がいるから2人等 ○児童館以外の遊び場 友達の家58人、自分の家53人、公園25人、学校16人、塾12人等 ○児童館の好きな所、嫌いな所 遊戯室で運動ができる。たくさん友達と遊べる。家にはない遊び道具がある。パソコンがある。いろいろな行事がある。先生が遊んでくれる。菓子が食べられない。仲間外れになる。悪い子がいる。</p>
<p>利用者からの要望・苦情と対処・改善</p>	<p>○要望 ⇒ 回答 ・駐車場を広くしてほしい ⇒できない。詰めれば10台以上駐車可能。他の児童館に比べトップクラスである。 ・遊戯室の窓に網戸をつけてほしい ⇒できない。遊戯室は児童がポール遊びをする部屋。すぐ破損する。 お母さんは幼児の行動に注意を。 ・外の遊具がほしい ⇒庭の遊具は基本的には無理だが、要望が多ければ検討したい。 ・大人用の本(子育て本、子どものメニュー本) ⇒具体的に著書名がわかれば、購入を考えたい。 ・おもちゃの消毒はしているか ⇒週1回消毒している。 ○その他意見 いつも優しく親切で名前を覚えて声をかけてもらえてうれしい(保護者)。けんかを仲裁してくれる(児童)。先生が遊んでくれたり話をきいてくれたりするのがうれしい(児童)。</p>

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	A	A	A
		情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表(館内掲示など) ・広範で適切な広報活動の実施(ホームページなど)	SS	S	S
		区分評価			S	
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	S	S	S
		利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	・利用者アンケートの実施 ・苦情・クレームへの着実な対応	A	A	A
		利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施(仕様書別記3参照) ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	A	B	B
		サービスの質を確保するための体制、モニタリングなど	・事務分掌等に基づく事務分担の実施	A	A	A
		施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	S	S
区分評価			A			
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	指定管理経費の妥当性(収支計画の妥当性など)	・収支計画に沿った運営(予算書に沿った執行)	A	A	A
		管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	A	A	A
		区分評価			A	

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・事務分掌等に基づく管理・監督体制並びに事務分担の実施	S	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	A	A
		リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
	区分評価					A
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他の団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	A	A	A
		地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	A	A	A
	区分評価					A

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

今期の取組みに対する評価	<p>「児童館ガイドライン」を新指針と認識してスタートした。その主旨の一つが、住民や児童とのコラボによる運営、つまり、ボランティア体制の構築による協働体制の確立である。</p> <p>そこでまず、児童の自主的活動を支援するために、今年度「子ども運営委員会」「わくわく合唱団」を新設した。既に6年前から活躍している、小学生自主ボランティア隊「V・わくわく隊」が広く社会貢献活動に実績を残しており、また、幸い大学生(中部学院大学・岐阜大学等)、高校生(城北高校等)とのボランティア連携は確立している。さらに地域の母親、高齢者、障がい者等の団体とも交流は深い。今年度、子ども・学生・地域の各層とのボランティアネットワークを更に強固なものとした。</p> <p>そして今期評価の結論は、半ばの現時点ではA評価、今年度末はS評価を目指すつもりである。</p>
前回までの意見を踏まえた取組み状況	<p>前年度までの、唯一のマイナス評価は、「利用者数」の前年度比減。これだけの厳しい減少はかなりショックだった。その要因を、反省を込めて冷静に分析してみた。</p> <p>①出生数が平成12年度前後をピークに(団塊の孫世代、当地域は大型団地が完成等)減少が続く ②少子化に伴う幼稚園児の奪い合い合戦(3歳未満児の争奪戦) ③民間有料子育て施設の増加 ④小学生では、塾、習い事、スポーツクラブ加入等で時間的余裕のない小学生の増加(子どもへ投資の増加)。</p> <p>そうした物理的要因を挙げて、嘆いていてもはじまらない。だからこそ、母親や小学生に対し、そのニーズを的確に把握し、魅力的な新規事業を立ち上げて、利用者増をねらってきたつもりである。</p> <p>ところが、結果は「笛吹けど踊らず」の感がする。頭を抱えている。</p>
今後の取組み	<p>恐らく、社会情勢等から判断すると利用者数の増加は、今後、望むべくも無いだろう。福祉施設なるが故の限界だという気もする(動物園や図書館、文化ホール等のように、利用者数が問われる施設とは明らかに性格が違う)。今後は、量よりも質で勝負をしたい。それが結果的に、利用者減に歯止めがかかれば。</p> <p>他の児童館には無い、当施設のオリジナル事業を次のように展開してきた。</p> <p>小学生向けには ①小学生自主ボランティア隊(高齢施設訪問、障害者施設訪問、街頭で交通安全運動、「お化け屋敷」の企画運営、道路清掃等) ②「宿題追い込みルーム」開設 ③年2回の野外デイキャンプ(ふるさと文化財の保存) ④遠い地域の公園で「青空児童館」 ⑤小学卒業生対象の「赤ちゃん抱っこ会」等</p> <p>幼児親子向けには ①子育て大学公開講座シリーズ「母学キャンパス」 ②父子対象講座の「パパ友クラブ」、祖父母対象の「孫育てセミナー」 ④高齢者と赤ちゃんの交流会 ⑤専門相談員による「子育てなんでも相談」等。</p> <p>地域の大人向けには ①夏・冬の「児童館まつり」 ②本物の文化事業「ファミリー秋のコンサート」の開催 ③昔懐かしい屋外での映画会「星空映画会」等</p> <p>これらのオリジナル事業をもう一度、市民目線で総括し、さらに充実させたい。また、今年度の目玉事業である「子ども運営委員会」を核にして、今後、「子ども新聞の発行」「ふるさとのいいところ見つけ隊」等の新規事業に取り組みたい。</p> <p>さて、中部学院福祉会が、指定管理者に指定されてから6年が経過。当児童センターの物理的な特質を踏まえて、更に、当児童センターらしい特徴(カラー)を生み出すことを意図しながら、運営努力してきたつもりである。ここで、そのカラーとして定着したと自負できる7項目を挙げてみたい。</p> <p>①大学との連携によるグレードの高い子育て支援策。②小学生のボランティア意識の育成と支援。③恵まれた自然環境を生かした児童の野外活動。④地域の子育てネットワーク組織との協働によるキメの細かい子育て支援策。⑤地域へ発信する各種活性化イベントの開催。⑥移動児童館の拡充による遠隔地住民へのサービス。⑦明るい施設内雰囲気づくり。</p> <p>今後、指定管理者として5年間管理運営を担う責任は重い。以上の特徴を更に深めながら、他の児童センターには見られないオリジナル事業に挑戦し続けるつもりである。</p>

●所管課の意見

児童センターのおたより配布やホームページ掲載のほか、日刊紙、放送等多様なマスメディアを活用し、広範囲な広報活動を実施。積極的に情報発信を行った。

父親及び祖父母応援セミナー、定期育児相談会、子育て専門講座などを実施した。「小学生ボランティア隊」の育成支援のほか、新たに「子ども運営委員会」を設立。「子ども音楽隊」を結成し、高齢者施設で訪問事業を行った。また、自然環境を活かした野外活動など、他にない魅力的な取り組みを継続して実施している。

各種子育て講座の講師に法人系列の人的資源の活用や、学生ボランティアによる事業実施など法人のネットワークを活かした魅力ある事業運営を行った。同系列の保育園、幼稚園と連携して定期的に交流する等、法人の特徴を活かした事業も行った。

来館利用者数(児童館担当地区の人口増減率で補正後)の実績82.5%(対前指定期間比)のため、「利用促進、利用者増の方策」をB評価とする。

事業計画に基づく事業は計画どおり実施した。職員配置は他館に比べゆとりがあり、経営状況についても問題なく運営が行われた。

地域との協働を基本に、地元の関係機関との交流や地域の行事に積極的に参加、支援、連携した。また、地域の振興や活性化につながるような事業を実施し地域に貢献した。

●指定管理者評価委員会の意見

事業計画書どおり適正に管理運営されており、良好と認められる。

大学との連携など法人の特色を生かした事業運営に取り組まれている。今後も、利用者のニーズ把握に努め、利用促進、利用者増に繋がる改善に努められたい。